15年度入社式 企業トップ訓示

◆浅沼組
浅沼　健一社長
社会人のスタートにあたり、皆さんに期待するのは「自ら考え行動ができる人」である。我々を取り巻く環境は常に変化し、その変化に柔軟・的確に対応するには、与えられた課題を遂行するだけでなく、自らが主体的に何が出来るのかを常に考え、行動できる人でなければならない。建設業の社会的使命は、我々が創り出す構造物を通じ、利用する方々の安心・安全・快適を確保することで、社会人として自覚と気概と夢を持ってこの誇りある仕事に取り組んでほしい。

◆安藤ハザマ
野村　俊明社長
建設業は、他産業と比較しても、個々人の能力に負うところが大きい。皆さんも、物事を考えるとき、まず、自分が向き合うテーマを明確にし、色々な角度から検討したうえで、自分で結論を出すように習慣づけてほしい。次に、学ぶとき、仕事をするときには、先入観を持たないこと、思い込みをしないことを心得てもらいたい。新会社はまだ3年生であり、新しい社風を作り出すのは皆さんだ。前向きで溌剌とした社風を築いてほしい。体調管理には十分注意して、何かあれば先輩や同期に相談などしてほしい。

◆大林組
白石　達社長
当社は、これまで培ってきた世界に誇るべき技術力に磨きをかけ、その使命を果たしていかなければならない。今日、その仲間が増えることを嬉しく思う。皆さんに、心に刻んで欲しいことは、先を読んで計画し実行すること、仕事を楽しむこと、事業マインドを持つことの3つ。3つのことを行うための基本は、心身ともに健康な生活を心掛けることで、悩みがあれば一人で悶々とせず、先輩や上司、同僚に相談してほしい。今日から始まる社会人生活を大いに楽しみ、全員の活躍を期待している。

◆奥村組
奥村　太加典社長
皆さんには建設業の社会的使命を認識するとともに、一日も早く自信と誇りを持って当社を一人称で語れるようになってもらう必要があり、働くことを通じて社会に貢献できるよう、高い目標を持って業務に取り組んでもらいたい。皆さんが掲げた目標を達成するためには、地道な努力と多くの時間が必要であり、その過程において、さまざまな困難が待ち受けていると思うが、永遠に続く苦難などなく、石の上にも3年というように、途中でくじけず、ひたすら仕事に向き合っていけば、必ず成果が表れると確信している。

◆鹿島
中村　満義社長
今建設業界は社会から大変期待されている。皆さんと家族を含めた国民の生活と命を守るためには、安全な国土と社会を支えるインフラを形作る、われわれ建設業の力が不可欠であるからだ。新幹線や環状道路などの新たなインフラも、経済成長には欠かせない。今日から鹿島建設の一員として当社に入社した皆さんは、この仕事を誇りに思い、期待に応えて頑張っていただきたいと思っている。

◆熊谷組
樋口　靖社長
私たちはうまくいかない時に、社会が悪い、誰々が悪いとついつい人のせいにしがちだ。しかし、ほとんどは自分に責任がある。「内」にある。そこに気付いた時、自分を見つめる事ができた時、自然と物事はうまく進んでいくものだ。皆さんには、自分を見つめ、一人ひとりが責任を持って、自分の役割を果たせるようになってもらいたいと思っている。そして全員の意識をひとつにし、私がいつも言っている『全員参加』で熊谷組を発展させていこう。

◆清水建設
宮本　洋一社長
建設業は衣食住の住を担い、人々の生活基盤をつくり、社会の中でなくてはならないものである。皆さんには、建設業に誇りをもってほしい。当社は、211年のものづくりの歴史がある。今後、様々な部署に配属されるが、ものづくりにベクトルをあわせ、自ら考え、判断して、行動し、また、コミュニケーション力を大事にして、逸品生産で顧客に満足してもらうため、更なる高みを目指してほしい。若い力で、会社を更に盛り立ててくれることに期待している。

◆錢高組
錢高　一善社長
グローバル化が急速に進む現代社会においては、想定外の出来事が多々あり、自らがその想定外に気付くか否かは好奇心を持つか持たないかの差である。その為には人間一生勉強である。新入社員のうちから貪欲に知識を吸収し、身につけることによって、世の中が見えてくるし、仕事もわかってくる。そうすれば、自分に自信も湧いてくる。色んなことに対して好奇心を持ち、失敗を恐れずチャレンジしてほしい。

◆大成建設
村田　誉之社長
大勢の人たちと一緒に仕事をしていくことになり、いろいろな仲間ができるであろうが、ここに集まったのが最初にできた仲間で、それは生涯変わることはない。共に成長してほしい。これから諸君は「地図に残る仕事。」を自らの手で進めていくことになる。仕事は、苦難と挑戦の連続。挑戦・苦難・達成を繰り返していくことが成長へと繋がる。最後まで与えられた仕事をやり遂げて、「地図に残る仕事」のやりがいを思う存分味わってほしい。

◆大豊建設
水島　久尾社長
当社は創立以来、66年になったが「信頼に応える確かな技術」をモットーに倒産の憂き目に遭うこともなく半世紀以上、社会に貢献してきた。我社の技術は近代工法の礎となったものもあり、現代まで受け継がれている。先人たちが築き上げたその技術や精神を未来の担い手である皆さんバトンタッチし、「ものづくり」の魅力を教え、各々が自信と誇りを持って働き、社会に貢献できる会社であり続けたいと思っている。

◆大和小田急建設
金久保　篤司社長
当社は、今年度、大和ハウス工業の100%子会社となり、その後、同グループ会社のフジタと統合する予定であり、大きな変化の年を迎えている。統合したら準大手ゼネコンの位置付けとなり、皆さんはその1期生になる。将来に向かって、一つひとつ勉強しながら、大和ハウスグループの一員としての認識を持ち、社会的な見識を豊かにしていくことが肝要だ。失敗を恐れずに体を使って知恵を絞り、積極的かつ能動的にチャレンジしてほしい。

◆竹中工務店
宮下　正裕社長
本日の入社式にあたり、皆さんの心に刻み込んで欲しいことが二つある。第一は当社の社是。「正道を履み、信義を重んじ堅実なるべし」という言葉の意味をよく理解し、社会のルール、また会社固有のルールを固く守って欲しい。第二は、当社の伝統的精神を理解し、身につけて欲しい。建築No.1企業の社員として「豊かな未来のために意義あるものを世に遺す」という大きな志のもとに仕事をしていくという自覚を持ち、それぞれの職域の中で、例え、どんなに小さな仕事であっても、1つ1つの仕事に全力を注ぎ、No.1の仕事をして欲しいと思う。

◆竹中土木
竹中　康一社長
有史以来、土木技術者は、社会基盤を作る担い手として最高のリスペクトをもって見られていた。私自身、当然ながら、土木を深く愛し、大きな誇りを持っている。だからこそ、「高い想い」で入社される若い人たちが、「ものづくりの喜びを感じ、夢を育てる」会社を、私は目指し続けてゆきたいいつもそう考えている。皆さんもどうか、シビル エンジニアを天職として、正道を踏み、最高のパフォーマンスを提供して、社会に足跡を残していって頂きたいと思っている。

◆鉄建
林　康雄社長
本日を持ってスタートする15~17年度の3か年の中期経営計画の副題は「信用と技術を基本に業績の飛躍的な向上を目指す」となっている。「信用と技術」という言葉をグループ全体の合言葉にしてほしい。中期経営改革の中身について話すと、第一に、安全、品質、利益そして財務体質などの基礎体力を強化する。第二に、現場力、エンジニアリング力・技術開発力など技術を核とした企業力を強化する。第三に、人材育成や社員の処遇、ワークライフバランス、ダイバシティーなど人材力を強化する。以上の3点からなり、厳しい経営環境になろうとも生き延びていける会社の体力作りをしたいと考えている。

◆東亜建設工業
松尾　正臣社長
当社は2014年3月に創立100年を迎えているが、私達は、これからの100年に向けての礎を築いていかなければならない。前期の当社の受注額は10年ぶりに2000億円を超え、社員一同「さあ、今期は良い年にするぞ」と、新たな気持ちで今期首を迎えている。また、技術の核となる技術研究開発センターの新築工事が昨年11月からスタートしており、今期末には完成する予定。「高い技術をもって、社会の発展を図り、健全な経営により社会的責任を果たす」という当社の社是を具現化する多くの材料が整いつつある。

◆東急建設
飯塚　恒生社長
皆さんには若者らしく大きな夢をもって、社会人としての一歩を踏み出してほしいと思う。当社は企業ビジョンとして「Shinkaし続ける ゼネコン一東急建設」を掲げている。「Shinka」とは、「深く」と「進む」の意味で、さらにこれを掛け合わせて「真の価値」を生み出すとする三つの「シンカ」を表している。既成概念にとらわれず新しいことに挑戦し、常に高い目標を持って「Shinka」し続けていくことで「大きな夢」の実現につなげてほしい。その新しい力が東急建設のさらなる発展の起爆剤になることを大いに期待している。

◆東鉄工業
小倉　雅彦社長
15年度は、新3か年中期経営計画の初年度でもあり、「堂々たる成長」を目指していく。入社に当たって、お願いしたいことは、「お客様の視点」と「素人の感性」を忘れないこと、良き先輩に見習うこと、その上で仕事に自分なりの工夫・知恵を加えること、家庭を大切にすることの4点。当社は「誠実で☆キラリと光る☆ナンバーワン&オンリーワン」の企業を目指しており、皆さんが一生を託すのに値する会社だと思う。更に良い会社にするため、力を合わせて一緒に頑張ろう。

◆東洋建設
武澤　恭司社長
皆さんが身を置く建設業界の仕事は、世の中に貢献する仕事であるということを認識し、胸を張り、誇りを高く持って仕事に励んでほしい。皆さん一人ひとりの行動は、「東洋建設」という看板を背負ったものであるということを肝に銘じ、良識ある社会人として、当社職員として恥じぬ言動に努めてほしい。あなた方には無限の可能性と輝かしい未来が待っている。日々の勉強、経験の積み重ね、挑戦する姿勢などがあって初めてそれらを享受することができる。我々と一緒に頑張って行こう。

◆戸田建設
今井　雅則社長
我々の置かれている環境はめまぐるしく変化している。一人ひとりの考えや行動によって"喜び"に満ち溢れた企業グループになっていることを確信している。先ずは世の中をよく勉強すること。常に能動的になることが必要。一人ひとりが様々な能力や個性を持っての社会や価値観が変化する中で、当社の存在意義を見つめ直し新たな価値を創造していくためには、自らが変革していかねばならない。皆さんの成長と活躍を願って、①常に努力する②使命感をもつ③上司・先輩から学ぶの3つを要望したい。そして成長への意欲を糧に、「働き甲斐のある仕事」「職業人としての能力」「人間としての成長」というプロとしての『真の報酬』を手にしてもらいたい。

◆飛島建設
伊藤　寛治社長
皆さんの心に刻んでおいてほしいのは、経営理念である「利他利己」の精神をもって、誠実に、そして労苦を惜しまずに仕事に取り組む姿勢を当社のDNAとして引き継ぐこと、「自信」と「誇り」を持って仕事に臨むこと、会社は組織として動いてこそ機能するということを認識することの3点。現在のトビシマには「夢」を語り、それを「共有する」ことができる基盤が整ってきた。若い力を思う存分発揮し、新しい風とエネルギーを吹き込んでほしい。一緒に「夢」を語り、「共有」し、それを「実現」させよう。

◆長谷工コーポレーション
辻　範明社長
長谷工グループは、分譲マンションのトップメーカーとして、〝グループの全社員が営業マン〟をスローガンに、グループ全体でプロジェクトを進めている。一人ひとりが自分の所属する会社だけでなく、グループ全体のために行動するグループ連携の考え方が、長谷工グループのいい所であり、強みだと思っている。これからはいつもグループを意識して行動してほしい。一日も早くこのグループの一翼を担う人材として活躍されることを期待している。

◆フジタ
奥村　洋治社長
入社に際し、以下の3つをお願いしたい。「仕事に誇りを持つ」フジタで働くことに誇りをもち、ものづくりの技術、良き企業文化を身につけ、社会に貢献できる人材になる。「切磋琢磨してプロを目指す」企業理念を胸に、あきらめずひたすら努力し、経験を積み重ね自分の道を切り開いていく。「自分をデザインする」ありたい自分をデザインし、行動を起こし、ステップアップしていく。一人ひとりが、生き甲斐のある人生を、仲間と共に、心豊かに歩んで行くことを祈念する。

◆不動テトラ
竹原　有二社長
我社は魅力ある会社を目指しているが、次の3点が重要であると考えている。すなわち、「やりがいがある」「長期ビジョンがある」「適切な賃金」の3点である。建設業は世のため人のために重要な役割を担っており、幾多の自然災害から人命と財産を守っている。国土交通省は中長期ビジョンとして「国土のグランドデザイン2050」を策定しており、国を挙げて国土強靭化に取り組んでいる。今日から新たな3カ年中期経営計画が始まるが、目標達成に向けて共に全力で取り組もう。

◆前田建設
小原　好一社長
一人ひとりが自分なりの視点で考え行動する人になって頂きたい。物事を深く考える力と周囲との対話力から新たな価値が生まれる。前田が社会の変化を先取し挑戦を続けるためには、皆さんの力と成長が必要だ。各自が困難に打ち克つ強い意志と道を切り開くたくましさを持つビジネスパーソンへと成長し、思う存分活躍されることを心より願っている。

◆松井建設
松井　隆弘社長
安倍政権発足以降、株価の上昇と円高の是正が進み、景気回復の兆しもみられる。2020年東京オリンピック・パラリンピック開催もあり、現在建設業界にはフォローの風が吹いている。今年のテーマは「まず、自分から！」。先が読みにくく、受け身になりがちな時期だからこそ、「まず自分から、行動しよう」ということ。誰かに言われて動いているようでは、変化のスピードについていけず、取り残されてしまう。誰でもない「自分」から行動を起こそうということを全社員にお願いする。

◆三井住友建設
新井　英雄社長
建設会社は橋を架けたり、街をつくる。でも、それだけではない。多くの人びとの思いをカタチにする。コーポレート・メッセージ「はしも、まちも、ひとも。」は、当社のものづくりと社会貢献への思いを表現している。人と人との思いを結ぶのは理屈ではない。人の心に働きかける熱い思い、誠意を尽くす真摯な思いを大切にしてほしい。今、建設業界は再生と進化に向けて新たなステージを迎えようとしている。当社がそれに柔軟にかつ迅速に対応するためには、社員一人ひとりが常に成長し続けなければならない。

◆若築建設
菅野　幸裕社長
当社は今年、創業125年を迎える。皆さんも歴史と伝統を重んじながらも、常にパイオニア精神を持ち続け、一日も早く戦力として、新しい歴史を仲間とともに紡いでもらうことを願う。仕事をする上で前向きな姿勢を持たなければ、成果は得られない。また、多くの成果を得たいと思うなら、過程をしっかりと築かなければならない。さらに、過程を築こうと思うなら、基礎を固めなければならない。つまり、すばらしい成果をあげたければ、見えないところで地道な努力が必要。

◆鹿島道路
住吉　正信社長
人々が集う生活環境空間をつくるなど様々な機能がある。道路づくりの中でも我々は『舗装』を中心に取り組んでいるが、『舗装』は人や車など道路を利用する方々と最も接するところであり、我々がしっかりとした品質を保つことで、利用する方々が安全で快適に通ることができる。この道路を造り、維持更新していく仕事に大きな誇りを持って、それぞれの業務に取り組んでもらいたいと思う。

◆世紀東急工業
佐藤　俊昭社長
今年は「中期3か年計画」の2年目にあたる。「選ばれ続ける企業」として、新たな事業領域を確保し、継続的に成長できる企業への変革を目指す。諸君に是非実行してもらいたいことは2つ。「前向きな思考回路を常に持つ」、当社の行動指針にもある「信頼を克ちとる」である。仕事のやりがいは自分自身の心構えで決まるものであり、頼まれたことをやり遂げる、誰かの力になろうと意思を明確に持ち、何が出来るか考え行動し、安心して仕事を依頼でき、任せられるという信頼感を獲得できる人間集団になっていただきたい。

◆大成ロテック
藪田　英俊社長
建設業界を取り巻く社会環境は、国の国土強靭化政策のもと、社会基盤整備の必要性、重要性が大きくクローズアップされ、また2020年に開催される東京オリンピックに向けて、首都圏のインフラ整備が急がれている。このような状況の下、建設事業を通じて我が国のインフラを支える大きな柱である当社は、蓄えられた技術力をはじめとする総合力を遺憾なく発揮して、社会の要請に応えて行かねばならない。この使命を果たしてゆくためにも、大成ロテックは成長発展する企業であり続ける必要があり、将来を見据えた様々な取り組みが求められている。

◆NIPPO
岩田　裕美社長
当社の最大の財産は従業員であり、従業員一人ひとりの努力や粘り、そして真摯に業務に励む姿勢こそが「NIPPOの強さ」の基となっている。皆一人ひとりがいろいろな夢を持っていることと思うが、苦しい場面では、当社の行動指針である「夢を抱き、挑戦する」この言葉を思い出し、めげず、あきらめず、挑み、明日を切り開いて欲しい。そして、夢の実現に向け、皆の健闘と活躍を大いに期待して、次の言葉で結びたい。「どんなに高い山も諦めなければ頂はある」

◆日本道路
山口　宣男社長
忙しい毎日を送ることになるだろう。しかし、忙しい中でも、自分の時間をつくる努力を自ら行なってほしいと思う。たとえば、仕事を離れた部分で、いろいろな本を読むとか、昔からの友達といろいろな機会に知り合った人との出会いを大切にするとか、そういうことが、自分の内面を豊かにしてくれる。日々外からの刺激を受け続けることは、きっと皆さんの人生を深めてくれるものと思う。

◆前田道路
磯　昭男社長
三代の社長と先輩達の会社に対する強い思い、そして社員皆が汗を流し、知恵を出し、ひた向きに仕事に取り組む姿勢、これが「前田魂」。皆さんも、私たち社員に脈々と流れ続けるこの「前田魂」という最強のDNAを、先輩の背中を見て早く自分の物に出来るよう頑張って頂きたい。「つらい、辞めたい」と思う時があるかもしれないが、目標をもって前向きに努力すれば、将来きっと頑張ってきて良かったと思えることがあるから、簡単に諦めないでほしい。

◆アズビル
曽禰　寛純社長
ここ数年で「人を中心としたオートメーション」を推進するアズビルの事業と企業変革を進め、グループ全体での大きな展開があった。このチャレンジの動きをさらに大きなうねりに成長させる新たな仲間として皆さんを歓迎する。皆さんは今後、プロフェッショナルを目指すという気持ちを持ち続けて欲しい。また、常に「人を中心とした」という発想することで社会から見ても意味のある結果につながる。そして人生の貴重な時間を大いに楽しんで欲しい。

◆きんでん
前田　幸一社長
当社にとって、社員は財産。そのために皆さんに伝えたいことがある。1点目に基本を身につける地道な努力を継続すること。2点目に常に目標を持ち、その実現に向かって挑戦すること。3点目に「報告」「連絡」「相談」を確実に実施すること。4点目にコンプライアンスの意識を高くもち、公明正大に行動すること。5点目に海外でも活躍できる人材になって欲しいということ。より強く、明るく、風通しのよい、活気溢れる「きんでん」を皆さんと一緒に作っていきたい。

◆若築建設
菅野　幸裕社長
当社は今年、創業125年を迎える。皆さんも歴史と伝統を重んじながらも、常にパイオニア精神を持ち続け、一日も早く戦力として、新しい歴史を仲間とともに紡いでもらうことを願う。仕事をする上で前向きな姿勢を持たなければ、成果は得られない。また、多くの成果を得たいと思うなら、過程をしっかりと築かなければならない。さらに、過程を築こうと思うなら、基礎を固めなければならない。つまり、すばらしい成果をあげたければ、見えないところで地道な努力が必要。

フローリング
フローリング・ブロック
各種寄木フロアー
マルコー㈱
（旧　丸幸木材）
新しい床材S.Mモザイクパーケット
東京都江東区新木場1-9-6 〒136-0082
TEL 03（3521）0505(代表)
御用命下さい

豊かな経験・最高の技術
機械室レス・ロープ式・油圧式エレベーター設計・製作・据付・保守
乗用・身障者用・住宅用・人荷用・荷物用・病院用・自動車用・冷蔵庫用
優動
comfortable space
空間
横浜エレベータ株式会社
取締役社長　勝　治雄
本社　横浜市中区松影町2丁目8番6号　電話045(662)1594(代表)
東京支店　東京都港区芝大門1丁目4番10号　電話03(3434)1701(代表)
大阪営業所　大阪市中央区内淡路町2丁目3番1号　電話06(6946)0053(代表)
名古屋営業所　名古屋市千種区四ッ谷通3－26　電話052(781)5556(代表)
営業所　川崎・横須賀・厚木・静岡・北関東